



SKK  
SUPERIOR  
MATERIALS

H A K U R I T I G H T H

# ハクリタイト H

強力塗膜剥離剤

## はじめに

永年に亘って壁面を保護してきた塗膜も、年月が経つとともに汚染や塗膜の劣化が進み、塗り替えや補修の必要が生じてきます。

そこで、建築物の内外壁の改装における旧塗膜の剥離作業の効率化を図るために開発されたのが「ハクリタイト H」です。

ハクリタイト H は独自の剥離作用により、従来のケレン作業時の粉塵や騒音、また、強アルカリ・強酸による手あれ、膨大な人手と費用を要していた問題などを解決し、剥離作業の効率化を果たす塗り替え省力型の新・強力剥離剤です。

## 特長

優れた剥離特性	旧塗膜に対して溶解性と膨張性を兼ね備え、短時間で剥離効果を発揮します。
優れた効果持続性	施工面に塗付後は、ハクリタイト H 自体が表面に皮膜を形成し、剥離成分を効果的に旧塗膜内へと浸透させる作用がありますので、従来品に比べて3倍以上の剥離効果を発揮することができます。
優れた作業性	ハクリタイト H は塗着性に優れるため、塗回数が比較的少なくて済みます。
経済性	従来の剥離剤にはない経済性を持ち、しかも、従来品より優れた性能を発揮します。

## 用途

建築物の内外塗材、特に壁面に使用される塗材に幅広く適用できます。

薄付け仕上塗材

アクリル樹脂系、酢酸ビニル樹脂系など

複層仕上塗材

アクリル樹脂系、酢酸ビニル樹脂系、アクリルゴム系、ポリウレタン樹脂系、エポキシ樹脂系、クロロプレングム系など

厚付け仕上塗材

アクリル樹脂系など

合成樹脂エマルジョンペイント

フタル酸樹脂塗料

塩ビタイル

塗床材一般

塩ビシート、クッションフロアーなど

注) 1. セメント系の製品にはご使用いただけません。

2. 反応硬化形樹脂(ポリウレタン系、エポキシ系など)の中には剥離できないものがあります。

3. エッチングプライマー、焼付型のカラータタン、シート防水材の中には、剥離できないものがあります。詳しくは、最寄りの各営業所にお問い合わせください。

## 性状

外観	淡青色ゾル状透明液体
剥離溶剤	塩素系有機溶剤
沸点	約 40
比重	1.30 ± 0.05 ( 20 )

特定化学物質障害予防規則第 2 類物質に該当

## 剥離状況の確認

### 予備試験

小面積の施工面にハクリタイト H を試験的に塗付し、剥離方法と最適放置時間を決定してください。ハクリタイト H の塗付量と最適放置時間は、被塗面の構成樹脂成分、塗膜の厚み、下塗材の種類、素地面の種類、下地の凹凸、表面温度、環境、塗膜の経過年数などによって変わります。必ず前もって予備試験を行ってください。

施工面積約 0.01 m<sup>2</sup> ( 10cm 四方 ) にハクリタイト H を約 10g 塗付し、5 分後にケレン棒などで剥離の可否をチェックしてください。剥離しない場合、塗付量を増やして同じようにチェックし、適正塗付量を決定してください。また、ハクリタイト H は塗膜の溶解作用と膨潤作用を併せ持っていますが、剥離が可能になっていても塗膜表面に膨れを生じない場合があります、必ずケレン作業により、剥離状況を確認してください。

剥離可能な場合、ハクリタイト H 塗付後、5 分ごとにケレン工具を用いて剥離度合いをチェックし、最適放置時間を決定してください。

### 養生

ポリエチレンフィルムやマスキングテープなどを用いて、周辺の被覆養生を行ってください。また、風やはね返りによって飛散し、自動車や植木などに付着して損傷を与える危険性があります。必ずシート養生を行ってください。さらに、巾木・家具や剥離する必要のないペイント類などに付着すると、変形・変色のおそれがありますので、付着しないように十分注意し、このような部分は予め養生しておいてください。

### 使用器具

ローラー、刷毛

スプレー塗装は有効成分が飛散しやすいため、行わないでください。

### 塗付量

1.0kg / m<sup>2</sup> ( 下地がアクリル形塗材で 1 mm 厚の場合 )

旧塗膜の構成成分によって塗付量が異なりますので、必ず、予備試験を行って決定してください。

最適放置時間 目安は以下の通りです。

(20℃、65%RH)

旧塗膜・旧下地の種類	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗回数 (回)	放置時間 (時間)
フラット系ペイント(VP・EP・APなど)	0.8~1.0	1~2	0.25~2.0
アクリル系リシン	1.0~1.2	1	0.5~2.0
スキン	1.0~1.2	1~2	0.5~2.0
弾性リシン	1.0~1.2	1	0.5~2.0
アクリル系複層仕上塗材	1.0~1.5	2	0.5~3.0
アクリルゴム系複層仕上塗材	1.5~2.0	2	1.0~2.0
単層弾性塗材	1.0~1.5	1~2	0.5~2.0
アクリル系厚付仕上塗材	2.0~2.5	2~3	0.5~3.0
フタル酸系さび止めペイント	0.5~1.0	1	0.25~2.0
アクリル系トタンペイント	0.5~1.0	1	0.25~2.0
薄膜型エポキシ系塗床材	1.5~2.0	1	0.5~2.0
水性アクリル塗床材	1.5~2.0	1	0.5~2.0
クッションフロアー	1.5~2.0	1~2	0.5~2.0
塩ビタイル	0.8~1.3	1	0.5~2.0

注) 1. 放置時間が3時間以上になると、一度剥離した塗膜が再び硬化して、剥離困難になります。最適放置時間内に処理するよう、気を付けてください。

2. 最適放置時間を考慮し、ケレンできる範囲内でハクリタイトHを塗付するようにしてください。

#### 剥離

皮スキ、スクレーパー、ワイヤーブラシ、ケレン棒などのケレン工具を用いて剥離してください。

#### 剥離後の素地調整

- ・旧塗膜除去後は、ハクリタイトHに含まれる溶剤を完全に蒸発させるため、十分な養生期間が必要です。
- ・残存するハクリタイトHの被膜は、ワイヤーブラシなどで完全に除去してください。特に剥離後の下地において、目地部・凹部などに入り込んだ塗膜は入念に除去するようにしてください。
- ・剥離後、下地を十分に洗浄してください。
- ・シーリング材などを使用している部位がハクリタイトHによって膨潤や浮きなどを発生している場合は、これらを完全に除去した後、新たにシーリング材を打設してください。
- ・仕上材を塗付する場合は、フィラーまたは溶剤形シーラーで剥離した後の表面を処理してください。

#### 施工上の注意点

- ・有機溶剤の沸点が約40℃のため、気温が35℃以上の時、降雨・降雪時、あるいはこの直後、または、そのおそれがある場合、強風時などはハクリタイトHの施工を避けてください。
- ・剥離後の塗膜はよく乾燥させた上で、廃棄処理専門業者へ処分を委託してください。(乾燥が不十分で、ハクリタイトHの溶剤成分が残っている場合、特別管理産業廃棄物として処理しなければなりません。)また、既存塗膜(旧塗膜)にその他法令等で規制されている成分が含まれている場合には、その法令等に従ってください。

## 荷姿

ハクリタイト H

20kg ペール缶

### 《危険情報と安全対策》

製品の取り扱い、それぞれの安全データシート（SDS）に従ってください。特に 印の付いている製品は溶剤形のため、下記の点にご注意ください。

1. 引火性の液体のため、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒の恐れがあるため、換気に注意し、防毒マスクまたは送気マスクを使用するなどの安全対策を行ってください。
3. 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

### 《保管及び取り扱い》

直射日光を避け、35 以下の乾燥した換気のよい場所、及び部外者や子供が出入りできない場所に、密封して保管してください。

駐車中や運転中の車内の保管は、特に夏期や炎天下に車内温度が 35 以上になる場合がありますので、避けてください。

保管場所及び取扱場所とその周辺は、塗装中・塗装後共に火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、十分注意してください。合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。

ご使用の場合、使用機器は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。

消火には、粉末、炭酸ガス、泡消火器または水を噴霧してください。

容器のキャップを開ける際、容器内にたまった溶剤の蒸気圧で蒸気が吹き出すことがあります。顔を開口部に近づけないようにし、キャップを軽くゆるめて容器内のガスを抜いてから、ゆっくりと開封してください。

製造後、半年以内にご使用ください（標準状態での保管の場合）。

### 《安全衛生》

揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから、取り扱いには以下の注意事項を守ってください。また、第二種有機溶剤に該当しますので、有機溶剤予防規則に従って取り扱ってください。

ハクリタイトHは、多少麻醉性のガスを発生しますので、取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。

ハクリタイトHの蒸気は空気より重いいため下層に移動していきます。下層にいる人には前もって溶剤取り扱い中であることを連絡、通知並びに表示して警告してください。

容器から出し入れする時はこぼれないようにしてください。また、使用時にそのつど必要量だけを取り出し、常に密栓をすることを心掛けてください。

取り扱い中は皮膚に触れないようにし、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛けなどを着用し、また、顔、手、腕には保護クリームを塗って直接、皮膚に触れないようにしてください。

取り扱い後、洗顔、手荒い及びうがいを十分に行ってください。

皮膚や衣類に付着した場合、直ちに水で洗浄してください。炎症や刺激がある場合は直ちに医師の診断を受けください。

### 《救急処置》

蒸気を吸入した場合は、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受けてください。

誤飲した場合は、直ちに医師の診断を受け、無理に吐かせないでください。

目に入った場合は、清浄な水で十分洗い流し、医師の診断を受けてください。

### 《廃棄》

廃材、容器、養生材、ウエスなどは安全な場所にまとめて保管し、自分で廃棄、焼却せず認可業者に処分を委託してください。

容器に中身を残したまま廃棄したり、火気を当てたりしないでください。

排水路、下水、河川への排出及び地下浸透をしないでください。